

令和8年度 江戸川区立南小岩第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○ 考える子＜問題解決力＞ ◎ 思いやりのある子＜人間関係形成力＞ ○ 健康な子＜実践力＞			目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	【学校】 ◎いじめを発覚さない学校 ○誇りに思える学校 ○希望に海を越え、生き生きと学ぶ学校 【児童】 ◎自ら学び、課題を見つけ、よりよく解決することができる子 ○自他へのよさを尊重し、それを社会に役立てようとする子 ◎自ら健康づくりに努め、明るく活力ある生活を送ることのできる子 【教師】 ◎指導力向上を図り、児童が楽しく学ばせてくれる教師 ○できたことをほめ、児童と共に成長する教師 ◎教育目標をより具体化するための指導にあたる教師
前年度までの本校の現状	成果	ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善に取り組んだ。外部人材を活用した学力向上に関する取り組みを推進できた。			課題 ICT、生成AIを活用した校務改善、授業改善を行っていく。 L-Gateを活用した児童の状況把握、いじめの未然防止を行っていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度(%)		「中間」自己(学校)評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己(学校)評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎・基本の定着	・二ハコ学習スタイルの定着 ・スタディワークの実施 ・放課後学習室、スキャリタイム(学級毎の放課後補習)の実施 ・保護者ボランティアの協力による基礎タイムの実施 ・ミライシード、区学力定着度調査の実施	・3学期全項目達成率70%以上 ・各学期1回 ・年35回、放課後30分程度 ・保護者曜日、第13分間 ・3年生以上、各学期1回	70%		A	・各項目の達成率は5%を超えた。 ・11月に2学期のスタディワークを実施予定。 ・3学期は計画通り実施した。 ・保護者の協力で基礎タイムを行っている。 ・各単元でミライシードを活用している。	A	・「実態・やさしさ・ハロー」子供たちの成長が楽しみです。 ・個別対応に注力していることに感謝します。基礎タイムを、有聲画に感じます。 ・保護者の協力で基礎タイムを行っているのがよい。					
	○読書科の更なる充実	・読書意欲の向上 ・読書への関心を高める「よむYOMUワークシート」の実施	・読書タイム週2回以上、読書週間年2回、読み聞かせボランティア毎週木曜日実施 ・4年生以上、年30回	70%		A	・1学期は計画通り実施した。 ・1学期まで13回実施した。	A	・先生方の取組に感謝しています。 ・読書週や読書科の関心が高くなってきて感謝します。 ・読書タイムは仕方ないが、読み聞かせなどで楽しんでほしい。					
	○ICT、生成AIの活用	・授業や家庭学習におけるiPadの活用 ・宿題や家庭連絡におけるクラスルームの活用	・年間3回の校内研究を行い、効果的な活用方法を共有していく。 ・毎日、連絡し家庭との情報共有を密にし、宿題の実施率を向上させる。	80%		A	・毎月の校内研修で活用事例を贈りしている。 ・宿題の提出率は90%を超えている。	A	・iPadでの授業はすごく良いと感じます。生成AIでの内容が内容があまり理解していませんが期待します。 ・先生方の指導も大変だが、これからもよろしくお願いします。					
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・運動遊びに生かす為、体力テストの結果分析 ・江戸川子縄跳びワーク(短縄)の実施 ・縄跳びコンテストの上位入賞 ・学期毎の行事(運動会、長縄、持久走)の継続実施	・2学期以降実施 ・年3回、実施率100% ・区内の上位入賞 ・各行事及び練習期間実施率100%	70%		B	・部活動が出欠、分析を行う。 ・2学期の縄跳びワークを実施中。 ・異学年の教え合いにより技能を高めている。 ・10月に長縄、11月に運動会を実施予定。	A	・運動遊びを楽しみながら体力増進に繋がっていく成果が楽しみです。 ・フールでは校長、副校長も一緒に教えている事で、活発な環境になり健康維持に役立っていると感じます。 ・縄跳びコンテスト上位入賞期待します。					
	○インクルーシブ教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点での学習環境整備 ・支援シートによる個に応じた対応 ・副読交流等の計画の実施	・教室環境整備100% ・対象児童保護者の満足度90%以上 ・副読交流等の実施率100%	80%		A	・学校で統一して、整備した。 ・巡回指導教員と連携し対応している。 ・副読交流は計画通り実施した。	A	・継続をお願いします。					
教育の実現に向けた推進	○体験活動、自主活動の推進	・たてわり班(異学年交流)の実施 ・あいさつ運動の実施 ・6年児童による数寄居の実施 ・地域人材、外部人材を活用した共生社会実現に向けた教育の推進	・異学年交流年間計画実施率100% ・通年 ・区民祭り等への参加 ・年3回	80%		A	・1学期に校内オリエンテーリングを実施した。 ・代表委員会によるあいさつ運動を行っている。 ・10月の区民まつりに参加予定。 ・地区公開講座でバランビアンによる講演をして頂いた。	A	・児童の挨拶が楽しく感じます。先生方の指導の他、朝のお出迎えを毎日していただいているおかげだと思います。 ・区民祭りでの数寄居活躍期待します。 ・たてわり班は続けてほしい。					
	○子どもたちの健全育成に向けた取り組み	・道徳教育の充実、いじめ防止授業の実施 ・「L-Gate」による毎日の振り返り ・校内委員会の効果の実施、全職員での支援体制の構築	・年3回、実施率100% ・うち1回は保護者へ授業公開 ・全学級、実施率100% ・毎月実施	80%		B	・道徳においていじめ防止の授業を実施している。 ・全学級で実施しているが、回答率は80%を超えていない。 ・校内委員会は毎月実施している。	A	・いじめゼロをきざし早期発見早期対応の実施に期待しています。 ・思いやりの環境づくりが、子どもたちの健全性を育みます。					
不登校・いじめ対応の充	○関係者連携との連携によるいじめ、不登校等への対応	・エンカレッジルームの活用 ・SC(ｽｰﾊﾟｰｶﾝﾅｰ)SSW(ｽｰﾊﾟｰｽﾄﾗﾝｸﾞ)との連携、適切な活用 ・いじめ対策委員会による組織的対応	・サポーターと担任の連携、保護者との連携100% ・情報共有率100% ・事業の度に関係 ・事実把握後1週間以内行動、成果の確認	80%		A	・エンカレッジサポーター2名体制で運営できている。 ・SC、SSWと連携し、情報共有をしている。 ・いじめに該当する件について、いじめ対策委員会を開催した。生活指導連絡会は毎週行っている。	A	・関係者機関との連携を密に速やかな対応で成果を上げている。子供たちが安心して登校できるよう期待しています。 ・エンカレッジルームの活用もあり、様々な方が子供たちを見守って頂けることに感謝しています。 ・不登校児童が少なくなっているのは素晴らしいです。学校に魅力があると思います。					
	○地域との共育・協働	・HP(ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ)等による情報公開 ・学校関係団体との連携	・毎日更新 ・学校関係者評価A	80%		A	・HPは毎日更新中。タイトルによる情報発信も日々行っている。 ・花車ボランティアの方と打合せを行い、10月から活動してもらう予定。	A	・学校からの様々な情報公開により子供たちの様子が分かる。充実した学校生活になっています。 ・HPも毎日更新していき給食や行事がわかりやすい。 ・地域のお祭り・PTA関連行事への教員の参加に、子どもたちがとても喜んでいる姿が印象的です。ハローボール大会でも先生が活躍し、3位の結果でしたが地域との交流が児童へ還元されたいと感じます。有難うございます。 ・秋歌に「いっしょ季節の仲間」があるのが花車ボランティアが楽しみです。					
学校(園)から見た実践	○学校関係者評価の充実	・保護者アンケートの実施、結果の周知 ・教職員及び学校関係者中間評価による方針の修正及び追加、年度末評価の実施による次年度改善策の立案	・定期(年2回)、各行事後(毎回)に実施し、1か月以内の結果周知 ・9月、2月に実施後、改善策を立案 ・学校関係者評価A	80%		A	・保護者アンケートの1回目を実施した。 ・9月の学校評価委員会後、中間報告各HPにも掲載する。 ・中間評価を行っている。	A	・保護者アンケート結果公開し現状どう思われているか全保護者みれて良いと思います。・計画性を持って取り組まれていること、年間を通じて安定した様子に感謝します。					
	○学校における働き方改革プラン	・生成AI活用による校務改善 ・各分掌による文書起草、進行管理による会議の廃止 ・SSS(ｽｰﾊﾟｰｽﾄﾗﾝｸﾞ)等の有効活用 ・定時運動日の実施 ・教科担任制の推進、協働体制	・資料の準備時間短減率30% ・実施率100% ・活用率100% ・毎週木曜日 ・4～6年で実施	80%		A	・iPadで文書の閲覧ができるようにした。 ・起草のみで職員会議は行っていない。 ・効果的にSSSを活用している。 ・80%以上の授業運動できている。 ・計画的に教科担任制を行っている。	A	・学校環境が継続的に安定出来ることを望んでいます。・教科担任制も実施して最先端な行動だと思います。					
教育の展開	○教員の授業力向上	・研究指定校「生成AI活用による校務改善、授業改善」	・校内研究授業実施100% ・講師によるICT研修 年5回 ・専門性向上研修への参加90%	80%		A	・2学期から研究授業を予定している。 ・複数の講師から計9回の研修を受けた。 ・90%以上が研修に申し込んだ。	A	・教員と子どもの心の距離がとて近く感じられ、担任のみならず学校全体で子どもを見守っている環境と感じます。 ・研究指定校で生成AI活用による校務改善・授業改善の取り組み、新しい取り組みにチャレンジする姿勢も素晴らしいと思います。					